No.３９９　　2026年8月　August

「de mano(で まぁの)」は、牛豚肉を加工する「まぁの」が発行するミニコミです。生産地の様子や生産者の声、「まぁの」からのお知らせや小村の個人的な関心事などを掲載しています。
「mano」はエスペラント語で「手」の意味です。
生産と消費が「手」つなぐ肉流通を作り、
「手」作業主体の職人の技術で肉を加工する
という意を込めています。

まぁの から de mano

エスペラント語で「mano」は「手」、「de」は「～から」という前置詞です。

発行:まぁの　【火曜定休】
兵庫県尼崎市戸ノ内町5丁目8-6
☎ 06-6495-2546
06-6495-2900
✉ mano0298@snow.plala.or.jp
HP　https://www.e-sora.net/mano/

最近「みらい」という言葉が好んで使われていて、「核融合」が原発の抱える問題（放射性廃棄物など）を解決する“みらい”志向の技術であるかのように取り沙汰されています。そこで第１０回ミートミーティングで「遺伝子組み換え」について講師としてお話しいただいた河田昌東さんが、問題点を明快に指摘されていますので紹介します。（チェルノブイリ救援・中部通信「ポレーシェ」より）

核融合は夢の技術？

☆ 核融合の原理

原発はウランを分解する際に出るエネルギーを連続して取り出す、原爆をゆっくり燃やす技術です。一方核融合は水素の仲間ヘリウムを作る際に出るエネルギーを取り出す、水爆をゆっくり燃やす技術です。「資源は無限」と言われますが、海水からこれらを取り出し、濃縮するためには膨大な電力が必要です。



核融合炉夢想図

☆ 中性子の問題

核融合反応が起こるとヘリウムと中性子ができます。中性子は他の元素に吸収され放射性元素を作ります。中性子のエネルギーは大きく、外部に漏れるのを防ぐため建物は分厚いコンクリートの壁が必要になります。結果、最終的には核融合炉の建物全体が放射性廃棄物になります。「核融合で放射性廃棄物は出ない」というのは間違いです。

１９９９年には東海村のウラン濃縮工場で大事故が起きています。作業員がうっかりバケツで濃縮ウランを入れた結果、ウラン濃度が核分裂レベルになり、発生した中性子の被曝で２人が死亡、職員 667 名が被曝しました。飛び出した中性子を避けるため、当時東海村では工場の半径５００m 以内は避難勧告、10 ㎞以内の 10 万世帯には屋内退避が指示されました。中性子はそれほど危険な素粒子です。

☆「スカイシャイン」の問題

核融合反応の中性子防護のため建物の壁は分厚いコンクリートにしますが、天井は重さに耐えられないために薄くします。中性子は天井から空中に飛び出し、大気中の空気や水と反応し放射化します。これを「スカイシャイン」と呼び、核融合施設の周辺数㎞以内は危険です。

☆ 入れ物（ブランケット）がない

核融合反応を閉じ込め、トリチウムを増殖させ熱を取り出す装置を「ブランケット」と呼びます。原発の圧力容器に当たります。現在完成したブランケットはなく、実験段階です。実現への課題は山積みで、核融合炉の可能性は低く「未来のエネルギー」なんかではありません。

初夏が近づいているはずですが…

希望農場　6月農場たより　　清野　光弘

５月は、ゴールデンウイークが明けると初夏、いえ夏という天候になりました。北海道で気温が３０℃を超す気温となり、ここ厚真町でも２８℃になりました。今年も暑い夏がくると思っていると、６月に入ると今度は最高気温が２０℃に届かない日が続くようになりました。朝夕はストーブをつけています。５月に半袖で作業をしていましたが、今は長袖に作業着を羽織っています。ただこればかりは誰に文句を言えることではなく、黙々と作業をしなければなりません。



昨年の秋から続いていることは熊の出没です。本州も北海道も変わりがなく、毎日のようにテレビのニュースで観ています。北海道は街中での出没はありませんが、東北・関東では街中まで熊が出てきて大騒ぎになっています。エサが不足しているのでしょうか？人に危害を加えることがないように祈っています。

この気候に、放牧豚たちは５月よりも元気なように見受けられます。25℃以上の気温になると皮膚呼吸ができない放牧豚は動きを止めて、木陰をさがして昼寝しますが、今は２０℃くらいの気温なので過ごしやすいのでしょう。日中農場内を元気に走り回り、餌を食べて、多分夜はぐっすりと寝ているのでしょう。ただ、間違いなく暑い夏がやってきます。この暑さに備えているように思います。

世の中を見ると、中東情勢の影響から全てのものが値上がりをしています。ナフサの不足から手に入らないものまで出てきていて、私たちの日々の生活が脅かされています。近くの農家さんでは、耕耘機を動かすためのオイルが手に入らないと嘆いているほどです。

皆様のところは、いかがですか？　蒸して気温も高く不快な季節となると思いますが、お身体には気を付けてお過ごしください。これからも皆様に安心して食べていただけるお肉を提供するため努力いたします。

山の記録

銚子ヶ口（滋賀県東近江市）　　６月 29 日

鈴鹿１０座を続けます。R421 を走って道の駅を過ぎ、杠葉尾（ゆずりお）登山口の車２台分のスペースに停めてスタートです。梅雨の中休みをうまくつかめました。柵の閂を外してしばらくコンクリート道です。植林帯が長く続きます。沢沿いに登っていくと、まず右の軍手にヒルがくっついてもう血を吸っています。振り払うと別のヒルが左手に。スマホを構えると外れていきました。先回から急にヒルと仲良くなって大迷惑です。その後も気づかぬうちに胸、襟足、右足首と引っ付いていて、後で見ると血だらけになっていました。今後対策を考えないといけません。

コース整備はしっかりしていて、最初は頻繁に「銚子ヶ口」表示、やがて 200m ポストやレスキューポイントの看板で迷うことはありません。長い植林帯も木が大きくなって見通しがよくなり、２時間以上かかってやっと東峰。ここはまだ眺望がありますが、尾根伝いにしばらく行くと銚子ヶ口、ここは林の中です。以前来た時もここから先で迷って諦めましたが、今回はヤマレコが示しているので水舟の池に行きます。中峰、西峰と結局クラシ、イブネにつながる縦走路を歩いています。石ころだらけで歩きにくいアップダウンの道が続き、やっと池への降り口まで来たところで、ヤマレコが「ログの停止」とかで動かなくなりました。何で？　まあ何とかなる、と池に下りていきます。水舟の池はひっそりとたたずんでいました。周囲の木々に大きな白い花（？）と見えたのはカエルの卵でした。さて戻ろうとすると道がわからない。尾根の方へ登っていくと「大峠」に出て、さらに北上して「水舟の頭」から、やっと元の道に合流しました。ヤマレコが使えず、よく道に迷います。帰りは別のルートを通るつもりでしたが、ヤマレコもなくピストンにします。後半は歩き疲れて、行けども行けどもたどり着かず、バテました。今日は６時間歩きとおして３万歩を超えました。





ニ　ク　ヤ　ノ　ツ　ブ　ヤ　キ

リニア問題のリーフレットを同封します。山男の声を聞いてください。

◇　娘が梅田のスタンディングデモに出かけました。「NO WAR」などのプラカードを持って立ち続けます。こんな穏やかな意思表示に、今の若者への期待を持ちます。（幸治）

◇　このごろ夜中に目が覚めるとその後　ついついぼんやり考え事をしてしまってなかなか寝られません。６時間くらいは寝られているみたいやから「まあいいか！」（幸子）